

むらくも座2016

出雲歌舞伎復活公演

2016年11月27日(土) 11:00開場 12:00開演

スサノオホール 佐田工場駐車場



ありがとうございます 創立42周年

大好き出雲!

◆ 中将島の仇返し ◆ 熱海虎之助の伝四幕 ◆
 義士銘々伝大石瀬左衛門妻子別れ二幕 ◆
 嵐美里脚本 嵐美雁補綴美術 嵐美雀嵐美雁演出 藤間宏則振付
 若手花形奮闘公演!

少年虎之助が投げた鞠は、父の政敵村越権左衛門の額にあたってしまった。忠臣蔵外伝と共に、豪華仇討ちもの二本立て公演!

◆ 第一幕 黒姫山紅葉が原の場 ◆ 第二幕 黒姫山仙素道人庵の場
 ◆ 第三幕 黒俣城御殿庭先の場 ◆ 第四幕 黒姫山だんまりの場

◆ 第一幕 橋屋おくら屋敷の場 ◆ 第二幕 赤沢五郎屋敷裏門の場



出雲阿国生誕の地に、古くから育まれた出雲歌舞伎公演、昔ながらの芝居小屋の雰囲気再現、

秋の行楽は芝居見物でお楽しみください!

出雲歌舞伎むらくも座

■チケット(全席指定)S席3,000円・A席2,000円・B席1,000円・お茶付幕内弁当引換券1,000円

■プレイガイド/NPO法人スサノオの風TEL0853-84-0833・鳥根県民会館チケットコーナーTEL0852-22-5556・出雲市民会館TEL0853-24-1212

■お電話でのチケット発送を承ります(振込送料はお客様にご負担いただき、ご入金後発送します)お問合せ/NPO法人スサノオの風TEL 0853-84-0833

平日9時~21時・土日祝日9時~17時・毎週月曜日は休館日・月曜祝日の時は翌日が休館日 (<http://susanoo-kaze.jp/>) 〒693-0506出雲市佐田町反辺1747-4スサノオホール内

■主催/出雲歌舞伎むらくも座 ■後援/出雲市・出雲市教育委員会・出雲商工会・出雲観光協会・佐田町文化協会・NPO法人スサノオの風

むらくも座2016

— 出雲歌舞伎若手花形奮闘公演 —

今年の「むらくも座2016・出雲歌舞伎公演」は、仇討ちものの二作を上演いたします。前狂言は「中将島の仇返し・熱海虎之助の伝四幕」で、これは幼少期父の政敵に顔を負つけられ、武芸修行の未成人になって仇を討つというお話です。切狂言の「義士銘々伝・大石瀨左衛門妻子別れ二幕」は、赤穂浪士の一人大石瀨左衛門の討ち入り前の逸話を扱ったもので、いずれも出雲地方にのみ残されている貴重な演目で、56年前まで上演され一旦途絶えていたものを、当時の資料をもとに復活させたものです。そして昔ながらの芝居小屋の元気を取り戻そうと、客席と舞台が一緒になれる空間を演出します。どなた様もきっとご満足いただけるものと存じます。銀秋のひとつときを楽しい芝居見物でお楽しみください。

嵐美里 脚本 嵐美雁 補綴・美術 嵐美雀、嵐美雁 演出 藤間宏則 振付

中将島の仇返し 熱海虎之助の伝 四幕

（上演時間—時間三〇分）

第一幕 黒姫山紅葉が原の場
第二幕 黒姫山仙素道人庵の場
第三幕 墨俣城御殿庭先の場
第四幕 黒姫山だんまりの場

【解説】
大阪から山陽道を通り、中国山脈を越え、広島県安芸高田市出身の歌舞伎役者嵐美里によって、出雲地方に伝えられた全国でも珍しい演目の一つで、戦国時代の仇討ちを描いた娯楽性豊かな痛快時代物の歌舞伎狂言です。
作者は不明ですが、自来也が登場するところから、文化四年（一八〇七）大阪即座で初演されて以来好評を得た、一連の自来也もの一つと思われる。

【粗筋】
元服を控えた更科家の剣術指南役、熱海正人信吉（あたままささん）のぶよし）の長男、虎之助は、黒姫山紅葉が原で下郎の徳助を相手に、手毬を投げ合い遊んでいた。
そこへ更科家の出検役、村越権左衛門が通りかかると、虎之助が投げた手毬が権左衛門の額に当たった。下郎の徳助は自分が投げたのだといい許しを乞うたが、日頃から熱海正人信吉と仲のよくない権左衛門は、虎之助が信吉の長男と聞いて許さなかった。

徳助は、父の信吉を連れて来るからしばらく待つよう二人に言い残し屋敷へと向かうと、権左衛門は後に残った虎之助を散々にのしり、ついには額を傷付けてしまう。「いつ何時なりと、眉間の割り返しにまかり越せ」との捨てゼリフをはき、立ち去る権左衛門に虎之助はなすすもなかつた。剣術指南役の長男が眉間を割られたのでは、もはや生きて父の元には帰られぬと思込んだ虎之助は、自らの喉元に刃を突きつけ命を絶とうとした。その時、仙素道人が通りかかり黒姫山へ連れ帰っていった。
それから六年の歳月が流れ、仙素道人のもとで剣術の修行に励んだ虎之助は立派に成長していた。ある日、虎之助が柚木を持ち帰ると仙素道人が腕前を試した。すると仙素道人を打ち負かすほどの腕になっていたことから、仙素道人は「早々に下山して、村越権左衛門の眉間の割り返しをせよ」と命じ、剣術の秘伝を授け虎の巻を受け取った虎之助は仇討ちをめざして山を降りていった。

【配役】
熱海虎之助 岩崎 慎一
村越権左衛門 池田 徹
下郎徳助 佐貫 守
仙素道人 安井 裕
殿 野村 敏治
熱海正人信吉 片山 喜己
取り次ぎの侍 片山 健郎
諸士 石三郎
岩崎 慎一
池田 徹
佐貫 守
安井 裕
野村 敏治
片山 喜己
片山 健郎
岩崎 慎一
池田 徹
佐貫 守
安井 裕
野村 敏治
片山 喜己
片山 健郎

【解説】
浄瑠璃屈指の名作と呼ばれる「仮名手本忠臣蔵」が、寛延元年歌舞伎に移入され大当たりしたことにより、以後、赤穂浪士にまつわる戯曲が数多く書かれ、「義士銘々伝」として上演されていく。
この演目もその一つで、赤穂の江戸屋敷に勤めていたが、松の廊下の刃傷事件により主君浅野内匠頭切腹の報を、赤穂への早籠の使者となつて知らせたことで有名な大石蔵之助の親戚にあたる大石瀨左衛門のお話です。この演目も、広島出身の歌舞伎役者嵐美里によって、出雲地方に伝えられた全国でも珍しい演目の一つです。

【粗筋】
元禄十五年十二月、赤穂浪士の一人大石瀨左衛門信清は、江戸日本橋石町に住む橋屋おくらの養女であるおきよの婿養子となり、つましい生活を送っていた。
暮れも押し迫ったある日、おくらが一人で留守番をしていると、かつて奉公していた吉良家の用人である赤沢五郎が訪ねてきた。久しぶりの再開を懐かしむ間もなく、五郎は幼い時から目を掛けていたおきよを妻としてめとり、おくらも一緒に屋敷へ引きとりたいと持ちかけてきた。

併せて五百両という持参金に目がくらんだおくらは、おきよが帰宅するなり嫌がるのも聞かず撰関の末、五郎の嫁に出してしまう。
帰宅してきた瀨左衛門に、「おきよが間男と駆け落ちをしてしまった」というおくらを不審に思い問詰ると、おくらはすべてを白状してしまう。驚いた瀨左衛門に、おくらは一緒に居ても暮らせば一向に楽になる見込みはないと言いつつ、乳飲み子の清吉と共に追いついてしまふ。
それから数日、瀨左衛門は清吉を抱えながら、もらい乳をしながらかかっていたが、討ち入りの日も迫り、丁度、赤沢屋敷の裏を通りかかるとき、偶然にもおきよに出会う。
これまでの真相を聞いた瀨左衛門は、今宵吉良の屋敷に討ち入ることを打ち明けると、それを察したおくらが現れ、討ち入りの計画を赤沢五郎に告げようとする。瀨左衛門が止めようとする、おくらは包丁を持ち出して斬りかかるが激しい格闘の末討たれてしまう。そこへ寺坂吉衛門が、討入のため急ぎ本所徳右衛門町へ結集するよう迎えに来る。

瀨左衛門はおきよに清吉を預けると別れを告げ、雪の降りしきる中、清吉の泣き声を背に本所徳右衛門町へと向かう。

【配役】
大石瀨左衛門 渡部 祥太郎
おきよ 板垣 康太
赤沢五郎 池田 徹郎
渡部 祥太郎
板垣 康太
橋屋おくら 下女おたけ
寺坂吉右衛門 安井 裕久
渡部 良治
野村 敏治
安井 裕久

義士銘々伝 大石瀨左衛門妻子別れ 二幕

（上演時間—時間三〇分）

第一幕 橋屋おくら屋敷の場
第二幕 赤沢五郎屋敷裏門の場

【解説】
浄瑠璃屈指の名作と呼ばれる「仮名手本忠臣蔵」が、寛延元年歌舞伎に移入され大当たりしたことにより、以後、赤穂浪士にまつわる戯曲が数多く書かれ、「義士銘々伝」として上演されていく。
この演目もその一つで、赤穂の江戸屋敷に勤めていたが、松の廊下の刃傷事件により主君浅野内匠頭切腹の報を、赤穂への早籠の使者となつて知らせたことで有名な大石蔵之助の親戚にあたる大石瀨左衛門のお話です。この演目も、広島出身の歌舞伎役者嵐美里によって、出雲地方に伝えられた全国でも珍しい演目の一つです。

【粗筋】
元禄十五年十二月、赤穂浪士の一人大石瀨左衛門信清は、江戸日本橋石町に住む橋屋おくらの養女であるおきよの婿養子となり、つましい生活を送っていた。
暮れも押し迫ったある日、おくらが一人で留守番をしていると、かつて奉公していた吉良家の用人である赤沢五郎が訪ねてきた。久しぶりの再開を懐かしむ間もなく、五郎は幼い時から目を掛けていたおきよを妻としてめとり、おくらも一緒に屋敷へ引きとりたいと持ちかけてきた。

併せて五百両という持参金に目がくらんだおくらは、おきよが帰宅するなり嫌がるのも聞かず撰関の末、五郎の嫁に出してしまう。
帰宅してきた瀨左衛門に、「おきよが間男と駆け落ちをしてしまった」というおくらを不審に思い問詰ると、おくらはすべてを白状してしまう。驚いた瀨左衛門に、おくらは一緒に居ても暮らせば一向に楽になる見込みはないと言いつつ、乳飲み子の清吉と共に追いついてしまふ。
それから数日、瀨左衛門は清吉を抱えながら、もらい乳をしながらかかっていたが、討ち入りの日も迫り、丁度、赤沢屋敷の裏を通りかかるとき、偶然にもおきよに出会う。
これまでの真相を聞いた瀨左衛門は、今宵吉良の屋敷に討ち入ることを打ち明けると、それを察したおくらが現れ、討ち入りの計画を赤沢五郎に告げようとする。瀨左衛門が止めようとする、おくらは包丁を持ち出して斬りかかるが激しい格闘の末討たれてしまう。そこへ寺坂吉衛門が、討入のため急ぎ本所徳右衛門町へ結集するよう迎えに来る。

瀨左衛門はおきよに清吉を預けると別れを告げ、雪の降りしきる中、清吉の泣き声を背に本所徳右衛門町へと向かう。

【配役】
大石瀨左衛門 渡部 祥太郎
おきよ 板垣 康太
赤沢五郎 池田 徹郎
渡部 祥太郎
板垣 康太
橋屋おくら 下女おたけ
寺坂吉右衛門 安井 裕久
渡部 良治
野村 敏治
安井 裕久